

中隔枝がステントジェイルになっており、中隔枝近位部に 90%狭窄を来たす症例にまず中隔枝を保護するつもりでステントストラットよりバルーン行つた所、ステントにバルーンがひっかかり抜けなくなり、ついにはシャフトのつなぎ目で離断した症例の検討

- 1 . 中隔枝を保護するか
  - 2 . バルーンがちぎれた後の手段
- について検討した。

1 については大きな中隔枝であり保護してもいいとは思われるが、ガイドワイヤーだけ入れておいてつぶれたらバルーンを試みるという方法もありと思われる。またステント内をバルーンだけならおそらく枝はつぶれまい。今回はじめから cypher in stent を試みていたため、あらかじめバルーンということになったのであろう。Cypher in stent に関しては evidence もなく少し慎重にしたほうがよいと個人的には思う。初回の reste なら POBA のみもありと考える。

2 に関してはワイヤーをもう 1 本挿入し、絡めるという方法や、スネアを用いるというのが一般的であろうが、今回紹介されたのは sirocco という非常にすべりの悪いバルーンをガイディングカテ内で拡張し、カテとちぎれたバルーンのシャフトを一体化させて全てを引き抜くという方法であり、なかなか面白かった。